



ふくおか【Good】農業人100

主な農産物／冬春ナス、露地ナス、キュウリ、米、麦、大豆等

# 二宮 久幸さん (28歳) (営農地／朝倉市持丸)

## 卒業と同時に就農。周りに助けられて

《就農のきっかけ》

### 祖父の思いとタイミング

祖父の病気が判明したのが大学4年の10月。ちょうど、卒業後の進路を迷っていた時でした。ナスはすでに定植され、農業をできるのは祖母だけ。小さいころから、祖父に農機具の扱い方を教わり、作業を手伝っていたので農作業に不安はなかったそうです。「だけど、農家になるかどうかは漠然としていました。それでも倒れるまで作業をしていた祖父の思いを受け継ぎたいと感じ、就農を決意しました。」と二宮さんは語ってくれました。当時は、大学生で他県に住んでいたため、卒業までの半年間、平日は卒論、週末は実家に戻り農作業を手伝いながら、卒業と同時に就農したそうです。「祖父は就農を見届けるように6月に亡くなりました。」と静かに微笑みました。

《これまでの過程》

### 周りの支えと信頼を得られるまで

しかし、ナスの栽培は初めての二宮さん。右も左もわからないまま、部会の講習会等に出席し、部会の先輩方と祖母、普及指導センターに教わりながらナスを栽培しました。しかし、栽培してわかったのは、ハウスの使い勝手の悪さ。間口は狭く、作業性も悪く、面積も小さい。本格的に農業で食べていくには、量と品質の高い水準を目指したい。「よし、ハウスを建てよう!」早速、事業や資金の相談にいったところ、窓口で門前払い。初めて自分には信用がないことを実感したのです。

そこで、まず認定農業者になりました。さらに、部会の講習会や会議、消防団、若手の農業者グループである4Hクラブ※にも積極的に参加して、技術向上や人との繋がりを大切にしてきました。「現在では、作業をしていると近隣の農家から声を掛けられることが多くて、農作業に支障を生じています?!」と笑顔で語ってくれました。

冬春ナスとキュウリは農協の共同販売で経営を安定化させ、露地野菜と米の一部を個別に相対契約で納められるようになりました。社会的に信頼も得られたのか、願い叶って、平成19年に350坪、23年に350坪のハウスを建てることができました。また、平成21年の農業人材確保支援事業で常時1名雇用したことで、それまでの雇用に対するイメージ(家族に他人を入れる不安感)を払拭することができ、自分の作業の見直しや問題点の把握に繋がりました。

※4Hクラブ・・・農村の青少年が地域社会において交流と親睦をはかりながら、農業の生産技術や経営を学ぶとともにひろく生活上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループである。4Hとは、head(頭)、hand(手)、heart(心)、health(健康)の頭文字をとったもので、活動の目標を象徴している。



プロフィール

- 家族構成／祖母、母、本人 ■営農年数／約7年
- 従業員数／パート1名 ■耕作(経営)面積／5.0ha
- 販路／JA共販、直接取引

《これからの展望》

### 自分の力量に見合った規模拡大

ナスの経営を主体に考えており、その他の野菜は労働力の面から現状維持を考えています。米の有機栽培は自分ができる60aから始め、現在1.2ha栽培しています。顧客からはもっとほしいと言われることが、自分が満足のいくものをつくるには無理な規模拡大はしません。確実に出荷できる量しか契約はしません。でも、約束を守って良いものを出荷していけば、必ず、他の品目でも声がかかると信じています。自分の力量を考えて、可能であれば規模拡大や新規品目は栽培していくつもりです。

また、地域の水田の耕作依頼が増えてきており、大型機械を導入して対応はしていますが、今後を考えると新たな若い担い手を育成して地域の農業を守っていききたいと思っています。



### Good 成功のためのポイント

農業をしていると、決断しなければならぬ時期が必ずあります。その時は守りに入らず、勇気をもって進むべきです。但し、大口はたたかずに、自分の力量を把握して、挑戦しなくてはなりません。